

第22回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨（確定版）

1 日 時 平成26年1月10日（金） 18時30分～20時45分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 20人 *欠席 2人 山崎委員、中村委員（代理出席：諸橋氏）
(2) 事務局 5人 *教育委員会企画課 大崎課長、池田統括管理主事、市倉課長補佐、
小口主査、安井主査補
(3) 傍聴者 3人

4 報告・議題

- (1) 【報 告】 前回協議会およびそれ以降の動きについて
(2) 【議題1】 千城台地区の適正配置について
(3) 【議題2】 次回開催日時・場所について
(4) 【議題3】 その他

5 会議資料

- 資料1：第14～21回千城台地区学校適正配置地元代表協議会（概要）
資料2：協議の進め方
参考資料1：千城台地区における中学校の適正配置の必要性 論点整理表
参考資料2：中学校の生徒数推計・統合シミュレーション
参考資料3：シミュレーションA・Bの比較
参考資料4：小学校統合協議の論点整理表
参考資料5：現行学区での児童数推計
参考資料6：千城台地区小・中学校の施設概要

6 議事の概要

- (1) 【報 告】 前回協議会およびそれ以降の動きについて
事務局が前回協議会での協議内容及び協議会以降の動きについて説明した後、協議会委員が各学校や自治会等で行われた話し合いや活動について報告を行った。
- (2) 【議題1】 千城台地区の適正配置について
事務局が、「千城台地区における中学校の適正配置の必要性 論点整理表」を中心に説明を行った後、協議を行った。その結果、中学校の統合の必要性については、「両中学校とも適正規模でないため、統合の必要性はあるが、中学校の統合は、強行せず見送ることが妥当である」ことが確認され、次回の協議会で、再度確認するとともに、小学校の統合協議を進めることとした。
- (3) 【議題2】 次回開催日時・場所について
次回協議会は、平成26年3月7日（金）18時30分から20時30分、場所は千城台公民館にて開催することとした。
- (4) 【議題3】 その他
特に協議事項なし

7 発言要旨

(1) 会長挨拶（氏家会長）

本日は、先に中学校の統合の必要性について協議することになっており、議論を整理し結論を出していきたい。それを踏まえて、小学校の統合協議に入れればと考える。

1～3月は、各団体で役員の交代時期に入るが、適正配置の方向性を合意して、しっかり引き継ぎができるようお願いしたい。

(2) 報告

報告 前回協議会およびそれ以降の動きについて

〈山崎議長〉 「前回協議会およびそれ以降の動き」について、事務局から報告をお願いする。

〈事務局〉 「前回の協議」については、資料1・2をご覧ください。既に議事要旨が確定されているので、簡単に説明する。

(前回協議された概要)

○事務局が「学校適正配置の必要性」「中学校の生徒数推計・統合シミュレーション」「千城台地区中学校に在籍する生徒の居住分布状況」を中心に説明を行った後、協議を行った。

○協議の結果、次回も引き続き、中学校の統合協議を行うことが確認された。次に、「前回協議会以降の動き」について、以下のように報告する。

○事務局が出向いての説明・意見交換

1 1月13日（水）千城台南中学校 P T A理事会

1 2月 6日（金）千城台西中学校 保護者対象説明会

1 2月15日（日）第24地区町内自治会連絡協議会 会長会

〈山崎議長〉 次に、前回の協議会以降、各団体で話し合いをしてきている団体があれば、ご報告をお願いしたい。

〈植田委員〉 北小では、12月にP T A理事会を行った。小学校の統合については、概ね賛成であるが、特別支援学級の保護者から、統合場所や通学環境等で不安要素があるという声が出ており、ぜひ配慮をお願いしたい。

〈來住委員〉 西中では、先ほど教育委員会から報告があったように、12月6日に保護者対象の説明会を行った。全校の保護者に案内を出したが、当日は11名の参加者であった。結論としては、統合に反対となった。前回協議会でも報告したが、アンケート調査では、生徒も保護者も約70%が反対であり、今回の参加者においても反対が多数であった。理由としては、各学年3クラス以上、計10クラスあり、現状では特に支障はなく充実しているので、今、統合しなくてもよいという意見が大半であった。その他の意見としては、次のとおりである。

- ・統合に賛成であるが、いじめや不登校に対しては、十分考慮して統合してほしい。
- ・小学校は小規模校化しており、大変緊迫している。27年4月の統合が見送られたのは残念であり、ぜひ小学校の統合を先に進めてほしい。

〈谷野委員〉 東町自治会役員には、中学校の統合協議の進み具合に合わせて、小学校の統合協議を行うことを報告した。

〈佐々木委員〉 東小では、P T A本部に対して報告した際に、「小学校の統合よりも、中学校のねじれ解消を単独に進めたほうがよいのではないか」という提案をした。現在、東小の卒業生は、西中と南中に分かれているが、どちらかにまとめればよいのではないかという

ことも話し合っている。

〈栗山委員〉 南小では、役員会で報告を行い、中学校については、統合賛成が多数であった。

〈奥田委員〉 旭小では、小学校の統合が先送りになったことを文書で保護者に報告した。今後も、協議会の状況について、資料等を配布して周知していきたい。

〈大和久委員〉 西小では、前回と同様であるが、一度統合した後に、再度統合するようなことはしないでほしいという意見が出ている。

(3) 協 議

議題(1) 千城台地区の適正配置について

〈山崎議長〉 本日は、千城台地区の中学校の適正配置について協議する。まず、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 参考資料1については、前回協議会で要望があったもので、事務局で過去の協議会での発言を中心にまとめた論点整理表である。あらかじめ、委員の方々に確認していただき、修正した確定版は、既に協議会委員に送付しているので簡単に説明する。～説明～
※参考資料2～6については、前回と同様の資料である。

〈山崎議長〉 事務局の説明を踏まえて、意見がある方はお願いします。

〈栗山委員〉 参考資料1：論点整理表については、中学校の説明会でも配布したのか。

〈事務局〉 11月20日に確定版が出来上がったので、11月13日に開催した西中の説明会には配布していない。

〈栗山委員〉 南中では、この論点整理表を配布して、適正規模が12～24学級ということについて何も意見は出なかったのか。

〈來住委員〉 特に出していない。統合の良い点を強く説明していけば、大勢は変わるかも知れないが中立の立場で報告している。

〈栗山委員〉 小学校でも、最初は反対の意見が多かったが、説明をしていく中で大勢が変わっていった経緯がある。

〈事務局〉 資料配布の有無にかかわらず、中学校の説明会の中で、適正規模については説明している。ただし、数だけで判断するのではなく、各地区における通学距離や時間、地域性や子どもたちの環境等の実態を踏まえて協議し、判断いただきたいと伝えている。また、本協議会の意義もその点である。

〈佐々木委員〉 国としても、適正配置を推進していくということを聞いているが、本当か。

〈事務局〉 新聞報道では、教育再生法自民素案の中で、検討しているようであるが、まだ国として決定されたことではない。

〈山崎議長〉 ここで、南中の説明会について、報告していただきたい。

〈笹川委員〉 11月13日に行った説明会について報告する。結論としては、統合はしなくてもよいということである。理由としては、次のとおりである。

- ・南中・西中とも、各学年3クラス以上を維持しており、現状でも支障がない。
- ・中学校の現状を知っている現在の保護者の意見を尊重してほしい。
- ・学校が荒れていた経緯があるので、2校を残してほしい。
- ・今後は、生徒の推計を見ていきながら、様子を見て統合を進めていけばよい。

〈栗山委員〉 適正規模は、12～24学級となっている。南小としては、中学校の統合に賛成であり、そのことを伝えて、ぜひ再度意見を聞いてきてほしい。

仮に統合した場合、1クラスの人数はほぼ変わらないので、参考資料1：論点整理表

に掲載されている「×生徒同士や教員との人間関係が希薄になりやすいと思われる」ことにはならないと思う。事務局はどう考えているのか。

〈事務局〉 全校生徒数が増えることにより、校長、教頭、養護教諭などの一人職から考えた意見と捉えている。ただし、この整理表は、あくまで今までの協議の中で出された意見をまとめたものである。

〈鈴木委員〉 久しぶりの協議となり、経緯を思い出せないので確認したい。中学校の統合については、どの時期から出てきたのか。

〈山崎議長〉 小学校の統合協議において、統合シミュレーションをA案・B案の2案まで絞った。特にB案については、1つの小学校区内に中学校が2校残ることになり、物理的な条件から中学校2校を1校にしないとB案を選択できないことになることから、先に中学校の統合協議をすることとなった。

〈鈴木委員〉 了解した。中学校の報告では、現状では支障がないということであるのだから、そのまま残すしかないのではないかと考える。

〈栗山委員〉 小学校の統合シミュレーションにおいて、A案とB案の2案にこだわったため、このように中学校の統合協議も行っている。今年5・6月に、新しい推計を出した後に、もう一度検討してみてもどうか。ただし、中学校の意見が強ければ、中学校は統合しなくてもよいと考える。

〈鈴木委員〉 千城台地区の中学校では、特に困っていなければ、統合しなくてよいのではないか。

〈綿貫委員〉 西町自治会としては、統合のメリット・デメリットがこれだけ出ているのだから、早く協議会で結論を出してほしいという意見が出ている。統合についてのアンケートを自治会でとってはどうかと提案したが、理解せずに単純に回答する人も出てくるおそれがあるので、賛成されなかった。

〈多田委員〉 南町自治会では、明日、役員会があるので、本日の協議会について報告する予定である。中学校の統合については、専門的には適正規模がよいのだろうと思うが、特段に問題がなければ、統合しなくてもよいのではないか。

〈鶴岡委員〉 小学校については、児童数が少なく、運動会等で問題が出ている状況である。中学校については、学校評議員を長くやっているが、特に大きな問題を聞いていない。適正規模は12～24学級であるが、教職員においても小規模校で問題があると思っていないと思う。両校の生徒や保護者からも統合反対であるという意見が出ていることから、自分として結論は出せない。

〈土屋委員〉 この協議会に自分が参加しても意味がないのではないかと考えるようになっている。統合した場合、どこまで準備や整備をしてくれるのか、見通しが持てないので、判断できない。また、跡施設については売却されるのかなどもわからない。子どもたちにとってよいことは、地域にとってもよいことである。統合することが、地域にとって多面的に活性化するのであれば、統合を進めればよい。東京都でも、小中高の連携等も進まないようであり、千城台地区においても見通しが持てない。

〈大澤委員〉 千城台地区は、小学校は5校、中学校は2校ある。1つでも学校が減ることは、千城台地区における教育予算が減ることになる。小学校については、統合はやむを得ないが、中学校については、現状で満足しており、保護者は統合に反対していることから、統合しなくてもよいと思う。実際に、体育祭は大変盛り上がっている。

〈酒井委員〉 各委員の意見と同様で、中学校の統合についてはしなくてもよいと思う。先に小学校の統合を行えば、いずれ中学校も統合する時期がくると考える。また、千城台地区の東部から、少しずつ開発も進められてきているので、今後も様子を見ていきたい。

- 〈石原委員〉 中学校については、現在の保護者が統合に反対しており、無理に統合しなくてもよいと思う。中学校の統合を考えずに、小学校の統合協議を進めていけばよいと思う。ここで、会長、副会長、事務局をお願いしたい。現在の協議会委員については、ほぼ3年間やってきており、協議の経緯を十分理解していることから、来年度の協議会委員の構成については、役員交代がある中で、残っていただける方がいればお願いするなど、配慮していただけるとよい。
- 〈中藺委員〉 今回初めて出席した。委員の方々が統合に対してどうしたいのか、一生懸命に考えていた。氏家会長からは、できるだけ満場一致で決めたいと聞いている。各委員の意見から考えると、学校は子どもたちにとっても大切であり、住民にとっても大切である。震災の時を考えると、避難する場所もなくってはならない。学校施設を考えると、自分が小学校の時に、1クラスだけ新設校舎だったが不平等だと言われたので、できれば同じ環境がよい。1クラスの人数もある程度多い方がよく、学級数も多い方がよいということはわかるが、中学校としては、現状では統合に反対である。今後も、一緒に考えていきたい。
- 〈諸橋氏〉 北1丁目自治会の役員会では、中学校は2校残すのがよいということになった。主な意見は次のとおりである。
- ・学校が多い方が、地域との関係が密になる。
 - ・生徒の人数が少ない方が、教師の目が行き届く。
 - ・中学校を1校にした場合、千城台地区の端から遠くなる。
- 〈佐々木委員〉 先ほど述べたが、仮に東小学区である御成台も、南中となった場合、西中としては大丈夫か。
- 〈來住委員〉 そうなってくると、統合反対の話は変わってくると思う。
- 〈佐々木委員〉 学区変更等をする場合は、手続きをすればよいと聞いている。
- 〈事務局〉 学校単位ということではなく、各自治会単位で、育成委員会等の所属も変わることも含め、十分話し合っていただき、合意された場合、要望書等を提出していただく必要がある。
- 〈菅原副会長〉 学区変更等は、千城台地区全体のことも考えて進めて欲しい。
- 〈佐々木委員〉 統合に関係なく、各学校が連携することもできる。東小では、芸術鑑賞会の費用については、PTAバザーの収益金から出している。例えば、負担軽減のため、南小や旭小と一緒に、芸術鑑賞会を行うことも考えられる。
- 〈大和久委員〉 学区変更の話は、ずっと協議が平行線のままであるが故に、佐々木委員が提案したのだと思う。中学校の意見では、現状を前向きに捉え満足しているのはわかる。しかし、自分が子どもの時に、人数が多い中で様々な経験をしてきたことから考えて、本当によくなっているかという疑問である。また、委員の方々の中に、この協議会に参加しても意味がないのではないかという意見があったが、各団体の代表として集まっており必要である。ここで、もう一度、原点に立ち返ることもよいのではないか。
- 〈栗山委員〉 石原委員の提案に逆らうことになるが、あえて委員として残らないで、新しい方をお願いして、やり直すこともよいのではないか。
- 〈石原委員〉 南小としては、中学校の統合は賛成であるが、中学校としては、統合反対である状況を見ると、強引に進めることはできない。
- 〈鈴木委員〉 小学校の統合については、2年前に協議会として合意しているのだから、協議を進めるべきである。
- 〈栗山委員〉 統合シミュレーションのA案・B案について、もう一度考え直したほうがよいのでは

ないか。

- 〈佐々木委員〉 A案を選ぶのであれば、自治会が、どれだけ学校をサポートしてくれるかにかかる。例えば、東小では、子ども110番の家が少ないと聞いているが、各地区が呼びかけて増やすこともできる。
- 〈谷野委員〉 保護者も自治会の一員である。自治会は、65歳以上が3割以上という現実もある。
- 〈佐々木委員〉 積極的に保護者に協力してほしいということである。
- 〈多田委員〉 本日は、中学校の統合協議を行うことになっているので、話を戻していただきたい。小学校については、緊急性がある。自治会としては、セーフティウォッチャーなど、学校に協力できる範囲でやっている。保護者が大変なのはわかるが、我々もやっている。
- 〈大和久委員〉 感覚としては、小学校も統合の緊急性を感じていない。統合することで今よりも、より良くしたいということである。
- 〈山崎議長〉 本日の協議は、中学校の統合が必要なのかということである。小学校の統合シミュレーションのA案・B案に関わることから、中学校の統合協議を行っている。今までの協議から、現時点では統合はしない方向であると考えられるがどうか。
- 〈栗山委員〉 現状では、必要だといえない。差し戻すべきである。
- 〈山崎議長〉 先ほど意見が東小からあったが、仮に中学校のねじれを解消することになると、2校の学校規模のバランスが悪くなるが、その時に再度協議すればよいということではないか。
- 〈佐々木委員〉 小学校の保護者としては、中学校を統合してほしいと考えている。
- 〈鈴木委員〉 その声を大きくしていけばよいのではないか。
- 〈栗山委員〉 中学校には、論点整理表にある適正規模について、どう考えているのか、保護者に聞いてきてほしい。
- 〈鈴木委員〉 統合に前向きなのは、小学校の保護者ということである。
- 〈事務局〉 中学校の統合協議を整理すると、中学校の保護者は、現状の中学生の教育環境を考えた結果、現時点での統合は必要ないというご意見である。一方、小学校の保護者は、千城台の小・中学校を一括して全体的に捉えた時に、小規模校化する中で、早く統合を進めるべきというご意見である。
- 〈笹川委員〉 中学の保護者にもう一度、意見を聞いてくればよいのか。
- 〈栗山委員〉 適正規模について説明をするなど、お願いできればと思う。
- 〈佐々木委員〉 先を見て考えていただくようお願いしたい。
- 〈笹川委員〉 既に、説明もしているので、今の考えを変えるのは、難しい。
- 〈石原委員〉 小学校側が、中学校を統合してほしいという意見となっていることについて、聞いてくればよいのではないか。
- 〈中学校代表〉 了解した。
- 〈山崎議長〉 ここで、会長から意見があればお願いする。
- 〈氏家会長〉 今まで何回か提案させていただいたが、覚悟がいる。本日も、会長として協議をまとめてよろしいか。
- 〈佐々木委員〉 協議の流れから、今の中学校としては、統合は必要がない。ただし、小学校としては近い将来に統合を進めていきたいということではないか。
- 〈多田委員〉 理想は1校だが、現実的には2校ということであろう。
- 〈氏家会長〉 まず、今までの協議の経過を確認する。
・小学校については、小規模校化が進み、喫緊の課題が出ている。(特に南小・西小)

- ・統合シミュレーションを5 1通り→1 2通り→6通り→2通りまで絞ってきた。
- ・2通りのA案、B案の中で、特にB案については、1つの小学校区内に中学校が2校残ることになり、物理的な条件から中学校2校を1校にしないとB案を選択できないことになることから、先に中学校の統合協議をすることとなった。

本日の協議の結果から、必要性和実行性の2面についてまとめる。

- ・統合の必要性については、適正規模1 2～2 4学級が基準となっていることから、必要性はある。
- ・実行性については、それぞれの立場から賛否両論があるが、中学校の生徒・保護者アンケート調査も含め、統合反対の意見が多数となっている。このような状況を総合的に勘案し、中学校の統合は、強行せず見送ることが妥当である。

〈大和久委員〉 1つ確認しておきたいが、この協議会で合意されていることは、小中連携であるので、小学校の統合協議はもちろん、中学校の統合協議においても考えていきたい。

〈氏家会長〉 承知した。小中連携も踏まえて、協議していくこととする。

〈山崎議長〉 中学校の統合を見送ることは、協議会としての方向性であり、まだ決定ではない。各団体で持ち帰り、話し合っただき、次回、再度確認することとする。

〈栗山委員〉 次回協議会に向けて、2点、確認したい。

- ・現在の統合シミュレーションについては、2年前の推計を基準に考えられた案と思うが、来年度以降も同じシミュレーションを出していくのか。
- ・特別支援学級については、北小と組み合わせられて学級数等が出されているが、特別支援学級だけを切り離して考える案もよいのか。学校施設で考えた場合、切り離して考えた方が学級数にゆとりがでる。

〈事務局〉 統合シミュレーションについては、毎年データを新しくしているが、方向性は変えていない。今後も、協議会での必要があれば意見を吸い上げ、事務局としてシミュレーションを提示していくことになる。

特別支援学級については、通常学級と切り離すのではなく、互いに交流しながら成長していくことが求められており、実際に昨年3月、北小の特別支援学級の保護者との意見交換会でも、通常学級の子どものたちの優しい面が育っているというご意見も出されている。したがって、北小の通常学級の児童と一緒に考えるべきである。ただし、統合を考える際には、さまざまな障害をお持ちの児童に対する配慮は検討すべきであり、先行地区でも、特別支援学級中心ということではないが、大きな1要素として協議を行っている。

〈栗山委員〉 了解した。特別支援学級については、北小の中に含めて、考えていきたい。

〈大和久委員〉 特別支援学級については、各学校に分散していく方向であると聞いたが、いかがか。

〈事務局〉 「地域の子どもは地域で育てる」という考えから、千葉市の小・中学校では、約6割以上の学校に設置されてきている。今後も、統合に関係なく進めていく方向である。

〈栗山委員〉 北小については、特別支援学級を含めた場合、単学級ではなく複数学級として考えてよいか。

〈事務局〉 適正配置を考えると、特別支援学級の数は学級数には含めていないので、ご理解いただきたい。

〈奥田委員〉 先行地区では統合の際、特別支援学級の扱いをどのようにしてきたのか。

〈事務局〉 先行地区では、特別支援学級のある学校を統合校としたケースもあれば、特別支援学級の児童も一緒に別の場所の統合校に移転したケースもある。

〈奥田委員〉 次回協議会では、先行地区の特別支援学級を含む統合の場合、どのようになったのか

がわかる資料をお願いしたい。

〈土屋委員〉 統合に向けて、どのような準備をしていくのかがわかる資料もお願いしたい。

〈事務局〉 了解した。次回協議会で示したい。

議題（２）次回の開催日時と場所について

〈山崎議長〉 協議（２）「次回開催日時・場所」に入る。事務局から説明をお願いする。

〈事務局〉 概ね２か月に１度のペース開催することが了承されており、次回が今年度最後の協議会と考える。

具体的には、次回協議会は３月７日（金）１８：３０～千城台公民館でいかがか。

〈一同〉 異議なし（了承）

議題（３）その他

〈山崎議長〉 協議（３）「その他」であるが、委員の方々から何かあるか。

〈一同〉 特になし

（４）連絡

- ・次回協議会は、３月７日（金）１８：３０～２０：３０、千城台公民館で開催する。
- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。
- ・本日の協議内容について、各団体の方々にもお知らせいただきたい。事務局に「説明・意見交換」の要望があれば連絡いただきたい。

（５）会長挨拶（氏家会長）

本日も長時間にわたり真摯な協議に感謝する。中学校の統合については、一定の方向性が確認されてよかった。各団体で、確実に報告していただきたい。千城台地区住民に対しても、新年度を目安に協議会だよりを発行し、周知していきたいと考える。